

野球

彦根東3-1近江兄弟社

決勝戦

①



速報新聞

キマグレ

発行所  
彦根東高等学校  
新聞部

# 日本一の文武両道に向けて 赤鬼の新たな夏の幕開け

主将の山中俊亮君(3-7)は「前日の八幡工業戦はコールド勝ちだったの勢いはあると確信していたが、その一方で接戦になることも予想していた。焦らずにプレーすれば必ずチャンスは来ると思っていた」と試合前の心境を話した。雨の中での試合については「グラウンドの状態は悪かった

代表として、恥じないうよう、

が、投手の平尾を中心に踏ん張ることができた」と振り返った。甲子園出場が決定した瞬間は「素直に嬉しかった」とのこと。また「ベンチに入ることができなかった3年生に本当がありがとうと伝えたい」と話した。最後に「滋賀代表として、東高の看板も背負っているの、甲子園で日本一の文武両道を目指したい」と息を弾ませた。

監督の村中隆之先生は「選手がよく頑張った。素晴らしい試合で誇らしかった」と今日の試合を振り返った。甲子園に向けて「甲子園は希望だ。選手みんなが最高の舞台で最高の仲間と試合ができることがとても嬉しい。東高での文武両道を生かして甲子園でたくさんさんの経験のお土産を持って帰ってきたい。いままでの試合を生かして滋賀を代表として、恥じないうよう、

最後に村中先生は選手に向けて「選手自らが切り開き、勝つことができたが、まだチームとしてはできることはたくさんあり完成形ではない。完成したチームで甲子園に臨みたい」とメッセージを送られた。



が、投手の平尾を中心に踏ん張ることができた」と振り返った。甲子園出場が決定した瞬間は「素直に嬉しかった」とのこと。また「ベンチに入ることができなかった3年生に本当がありがとうと伝えたい」と話した。最後に「滋賀代表として、東高の看板も背負っているの、甲子園で日本一の文武両道を目指したい」と息を弾ませた。



▲堂々と行進する東高野球部

## 【赤鬼の夏】



彦根東高校は彦根藩の精神「赤鬼魂」を伝統としています。新聞部では野球部の夏の甲子園出場をシリーズ『赤鬼の夏』と題し、お伝えしていく予定です。(題字は野球部監督の村中隆之先生)